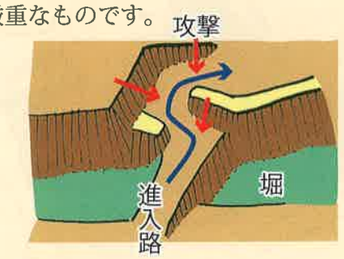
みどころ❺　屈曲する進入路

東・西・南からのルートが合流するあたりでは、通路を屈曲させて進入を困難にしています。大規模な土塁は、櫓門があった可能性があります。

みどころ❻　枡形虎口

南西の尾根に対して開く虎口は、枡形虎口となっています。小規模ながら、土橋を渡って３度向きを変えるという厳重なものです。

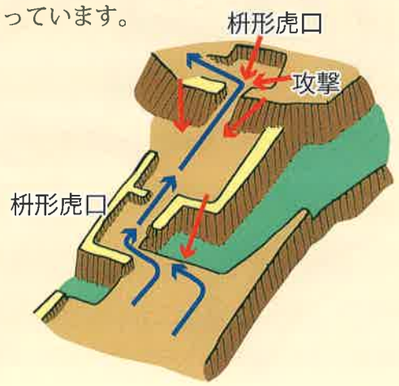


みどころ❼　井戸跡

石組みの井戸跡が残っています。周囲を囲む土塁の中には石材が散見され、かつては石垣が築かれていた可能性があります。

みどころ❽　連続する枡形虎口

東側尾根からの道は、いわゆる大手道だったと思われます。このあたりは、小さな枡形虎口を抜けて曲輪に入り、さらに枡形虎口を抜ける構造になっています。山上部と比較して、厳重さとあわせて雄大さを兼ねた造りになっています。



西方城址の歴史と価値

西方城は、宇都宮氏の一族であった西方氏の山城です。築城年代は室町時代の初期の築城と思われます。天正18年（１５９０）に豊臣秀吉が小田原城の北条氏を攻める時、関東地方の城や領主を書き上げた「関東八州城之覚」（毛利家文書）に「西方ノ城　西方駿河守」と記載があります。当時、宇都宮氏は結城氏や佐竹氏と力を合わせて北条氏と対抗していました。西方城のある場所は、宇都宮領の中でも皆川氏や壬生氏といった北条氏に付いた領主達と境を接する場所にありました。そのため、最前線の軍事拠点として、重要視されていたと考えられます。

小田原落城後、西方近辺は結城氏の領地となりましたが、城がその時まで使われていたかどうかはわかりません。慶長８年（１６０３）、藤田能登守が西方を領し、西方藩が成立します。その時には、東側の丘上にある二条城を陣屋としていたようです。

西方城は、山頂の主郭を中心として四方の尾根に曲輪を配置し、土塁や堀を築いていました。その姿は、鶴が翼を広げて飛んでいく様です。残念ながら、西側の曲輪は造成によって消滅していますが、かつての姿は栃木県立文書館所蔵の西方城絵図によって想像できます。

西方城の縄張には３つの特徴があります。まず、深い堀や高い切岸を築くことによって、敵の進入を阻んでいます。２つ目は、敵に内部に進入された時の備えとして、土塁・堀・切岸を巧みに組み合わせて通路を屈曲、複雑化し、横矢をかけやすくしていることです。特にみどころ④⑤⑧あたりの工夫は見事です。３つ目は、枡形虎口を多用していることです。とにかく、虎口を直進させることをできるだけ避けていたことがうかがえます。宇都宮氏の城では、多気山城（宇都宮市）にも多くの枡形虎口が使われています。

戦国時代の山城は、全国に数万箇所あります。しかし、西方城のように多くの工夫が凝らされ、コンパクトにまとまっている例はあまりありません。戦国時代末期における最高レベルの城造りの様子を、歩いて自分の目で確かめてください。

二条城址

二条城という名は、おそらくは、「新城（にいじょう）」つまり、新しい城が変化したと考えられます。はっきりした歴史はわかりませんが、戦国時代に築かれたと思われます。藤田能登守が西方を領し、西方藩が成立すると、その陣屋がこの城に置かれたようです。

城は、東側の一部が東北自動車道によって削られた他は、おおよそよく残っています。中央部の主郭は高い城壁を持ち、一部に石垣が残っています。また北西隅には櫓台も残っています。西側尾根伝いは、巨大な二重の堀切（主郭をめぐる腰曲輪を含めて三重という解釈も可）を掘って、遮断しています。北側斜面には　堀を設けて敵の斜面移動を抑えています。

屈曲する虎口もあり、部分的に技巧を凝らしていますが、切岸の高さを利用して敵を防ごうとする意図が強いようです。

（2011.03.3000YC）改訂

中世の山城
西方城址

西方城址へのアクセス

（山麓　長徳寺まで）標高 約221メートル

- 東武日光線東武金崎駅から徒歩約30分
- 北関東自動車道都賀ICから　車で約15分
- 登山口から山頂主郭跡まで　徒歩約15分

道が悪い場所があります。ハイキングに適した靴・服装を使用してください。

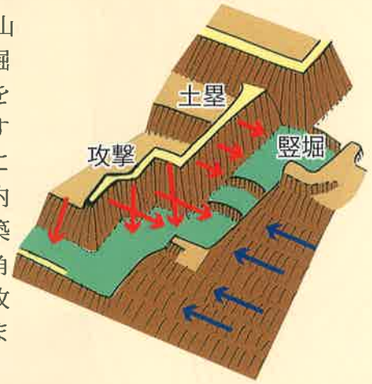
編集・発行　西方町文化財愛護ボランティア
栃木市教育委員会
わが町自慢推進事業
平成２６年６月発行

お問い合わせ先

栃木市教育委員会　西方教育支所
〒322-0692　栃木県栃木市西方町本城１番地
TEL.0282-92-0316
E-mail nishikata-k@city.tochigi.lg.jp
HP http://www.city.tochigi.lg.jp

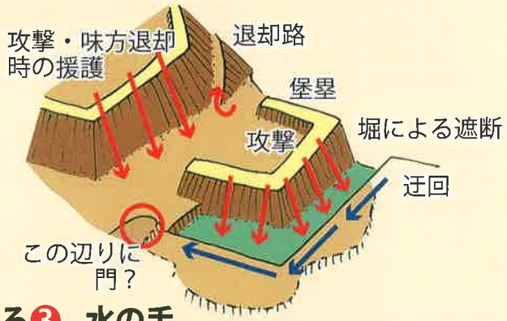
みどころ❶　屈曲する竪堀

長徳寺からの登山道は、かつては竪堀でした。敵が斜面を伝って城内に進入することを防ぐために掘られました。城内側には高い土塁を築き、屈曲させて死角を減らし、敵への攻撃を容易にしていました。



みどころ❷　北側の堡塁

最北端の小さな曲輪は、北側ルートからの敵の進入に備えていました。西側は斜面となっているため、敵は曲輪を囲む堀に沿って進まざるをえません。その間、曲輪から攻撃が可能です。さらに南側の広い曲輪からの攻撃も加わり、攻めるのは困難です。



みどころ❸　水の手

現在でも水が湧いており、当時は井戸の役割を果たしていたと思われます（斜面が急なため、足元に注意してください。）

みどころ❹　屈曲する進入路

土塁をうまく利用してルートを屈曲させ、敵の進入を困難にしています。